

プール関連施設コーティング材
パイロキープTS2000

規格適合品

- * JWWA K 143
- * 厚生省令 第15号
- * 厚生省令 第20号

施工要領書

2012年7月作成

株式会社シリカ・ジャパン

1. 使用材料

品名	成分	荷姿	用途
パイロキープ TS900E	水性エポキシ モルタル系	20kgセット (主材：15kg/ 袋、硬化剤：5kg/缶)	素地調整
パイロキープ TS2000プライマーC	アクリル 変性シリコン系	10kgセット (主材：7kg/ 缶、硬化剤：3kg/缶)	プライマー
パイロキープ TS2000	アクリル 変性シリコン系	10 kgセット (主剤：7kg/ 缶、硬化剤：3kg/缶)	上塗材
パイロキープ TS-FXクリアー	シリル化フッ素系	10 kgセット (主剤： 6.5kg/缶、硬化剤：3.5kg/ 缶)	クリアートップ材

(1) 素地調整材

メーカー セラスター塗料株式会社

商品名 パイロキープTS900E (水性エポキシモルタル)

規格 20kgセット

(2) プライマー

メーカー セラスター塗料株式会社

商品名 パイロキープTS2000プライマーC (チタン酸カリウム入りアクリル変成シリコン系)

有機溶剤の種類 主剤・硬化剤：第4類第2石油類

規格 10kgセット又は4kgセット

(3) 上塗材

メーカー セラスター塗料株式会社

商品名 パイロキープTS2000 (チタン酸カリウム入りアクリル変成シリコン)

有機溶剤の種類 主剤・硬化剤：第4類第2石油類

規格 10kgセット又は4kgセット

(4) クリアーコート材

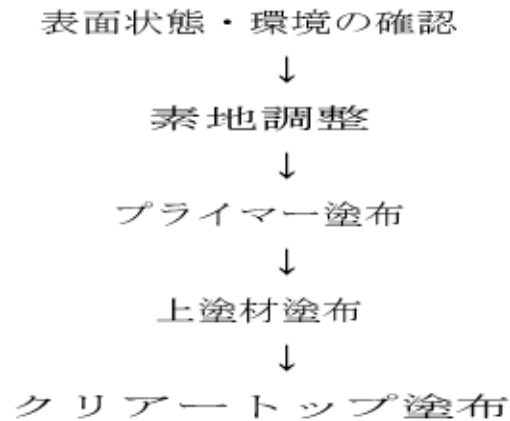
メーカー セラスター塗料株式会社

商品名 パイロキープTS-FXクリアー (シリル化フッ素)

有機溶剤の種類 主材・硬化剤：第4類第2石油類

規格 10kgセット又は4kgセット

2. 1. 施工順序



2. 2. 施工方法

工 程	使用材料名	施工方法	標準使用量 (kg/m ²)
素地調整	パイロキープ TS-900E	混練した材料を所定の厚みにレベル調整しながら金ゴテやゴムヘラにて平滑に塗りつける。入り隅等に補強クロス（基盤目タイプ）をセットする場合は、TS-900E の乾燥前に浮きの無い様、コテを使用し均一に貼り付ける。	1.0
下塗り (白又は指定色)	パイロキープ TS2000 プライマー C	パイロキープ TS2000 プライマー C を規定の配合で充分混合後、ローラーや刷毛等にて均一に塗布する。	0.2
上塗り (指定色)	パイロキープ TS2000 指定色	下塗りの硬化状態及び表面状態を確認し、異常が無ければ、パイロキープ TS2000 指定色を規定の配合で充分混合後、ローラーや刷毛等にて均一に塗布する。 ホワイトライン等を引く場合は、上塗り硬化後、クリアー塗装前に TS2000 ホワイトを使用し施工する。	0.15
クリアー塗布	パイロキープ TS-FX クリアー	上塗りの硬化状態及び表面状態を確認し、異常が無ければ、パイロキープ TS-FX を規定の配合で充分混合後、ローラーや刷毛等にて均一に塗布する。	0.1

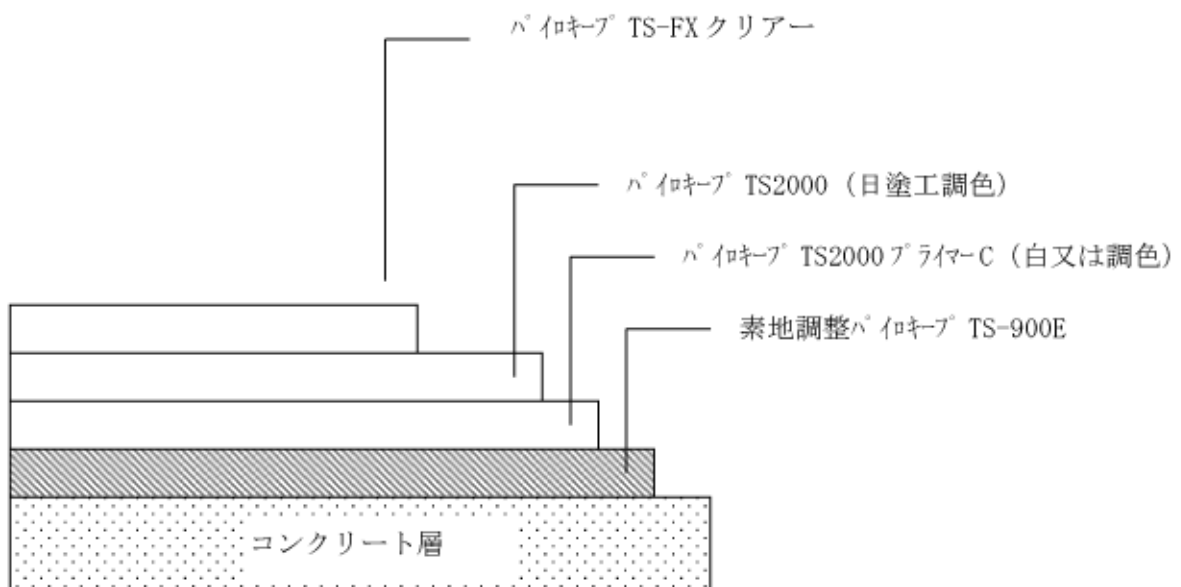
※上記の指定色は日塗工色見本帳にて指示願います。上塗り工程が1回の場合、プライマー C は上塗りの留まりを考慮し、上塗りより若干薄めの調色品の使用をお勧めします。

3. 材料配合と施工仕様

工程	使用材料	配合	塗装間隔 (20℃)	標準使用量 (kg/m ²)	希釈率
下地処理	型枠目違い・突起物及び躯体欠陥部をサンダー等により適切に処理する。 躯体表面の脆弱部及び埃を水洗する。(水圧 1.47MPa 以上) 旧塗膜の有る場合は全面ケレンに努めて下さい。 タイルの有る場合は基本的に撤去、埋め戻しとなります。不可能の場合は 軸葉上葉が無くなるまでのケレン削り込みする。 ステンレスに塗布する場合は充分なケレン目粗しする。				
素地調整	TS900E	主剤：15kg 硬化剤：5kg	2度塗りの場合 6時間以上後	1.0	1～2kg/セット 清水
下塗り	TS2000 プライマーC	主剤：7kg 硬化剤：3kg	素地調整完了後 24時間以上後	0.15	0～5%/セット 専用シンナー
上塗り	TS2000	主剤：7kg 硬化剤：3kg	下塗り終了後 6時間以上後	0.15	0～5%/セット 専用シンナー
クリア塗装	TS-FX クリアー	主剤：6.5kg 硬化剤：3.5kg	上塗り終了後 6時間以上後	0.10	0～5%/セット 専用シンナー

※TS2000～TS-FX クリアーの塗装でローラー、刷毛塗りの場合は原則無希釈。

特にTS-FX クリアーはダレを生じ易い為、無希釈とする。



4. 施工上の留意点

4. 1. 施工前

施工前に対象金属や素地調整層の表面状態および作業環境についてチェックする。

- 1 前処理、表面処理が完全に行われ、表面が平滑に仕上がっているかを確認する。
- 2 寒冷期の夜間又、高湿度の環境では結露の発生を想定し、施工を午前中に限定する。
又は順延する等の配慮願います。
- ③ 夏場は夜間、虫の付着が想定されます。塗装後の乾燥は遅い傾向にありますので夕方に掛る施工の無い様、施工計画を立てて下さい。
- ④ 溶剤を含む為、作業中は必ず換気を行い安全管理には充分注意する。

4. 2. 施工中

素地調整

原則として、旧塗膜を除去しコンクリートの清掃・金属表面は脱脂・目粗しを行う。

プライマーおよびトップコートの塗布

1) 気泡の発生防止

泡はピンホールの原因になるため、以下のことを守り、泡の発生を防止して下さい。

- 1 主剤と硬化剤の混合する際はハンドミキサーを用い、1分程度攪拌する。攪拌後は消泡の為5分程度ねかせて下さい。
(攪拌不足は硬化不良や硬化時間遅延の原因になります。)
- 2 夏場の気温の高く素地が熱を持っている場合は、専用シンナーを加え(5~10%)粘度を下げて塗布する。シンナー希釈は、作業性に問題のない範囲で極力少なくし、タレることなく膜厚の確保が出来る様コントロールして下さい。
- 3 ローラーを用いる場合は、できるだけ口径の小さく毛足の短いものを使用する。(無泡ローラーの使用をお勧めします)特に下塗りでは気泡が出やすい為、塗装後、短毛の空ローラー(シンナーのみ含浸)にて泡を潰し、上塗り塗装でピンホールができないよう、施工して下さい。上塗りで泡残りした場合も同様。

※ パイロキープはシリコン含有量の多い特殊塗料につき、泡切れが悪く乾燥の遅い傾向にあります。

2) 塗り重ね時間

硬化時間は、気温・湿度によって変わりますので注意して下さい。気温が10℃以下では硬化速度が極端に遅くなるので、硬化促進剤を用いて調整する場合があります。促進剤の添加量は1%以内で使用して下さい。また、硬化促進剤を使用すると塗料のゲル化が早くなりますので（冬期2時間程度・夏期1時間程度）、ポットライフを考慮して下さい。
作業の兼ね合いで硬化促進剤を使用する場合も同様です。

インターバルのおおよその目安は、	5 ~ 9℃	・・・	6～24時間
	10 ~ 19℃	・・・	4～6時間
	20 ~ 25℃	・・・	3～5時間

3) リコート性（タッチアップ補修等）

パイロキープTS 2000、TS-FXクリアーの塗膜はリコート性に優れますが、3日以上インターバルを空けると完全硬化し、付着力の低下に繋がります。（エポキシ塗料と同様）
完全硬化した塗膜への再施工（タッチアップ補修等）は目粗し及びラッカーシンナー等の使用による脱脂が必要です。

4. 3. その他

パイロキープはタックの残っている状況での次工程の塗装が可能です。（床以外）
スプレー塗装によるウェットオンウェット塗装は可能です。（タレのでない塗り量の工夫、インターバルは必要）
ローラー刷毛の場合は、引っ張り及びダレがでないようインターバル（最低4～6時間：20℃）を空け塗装して下さい。

以上